

厚生労働省  
群馬労働局発表  
令和2年1月31日

【照会先】

群馬労働局労働基準部健康安全課  
課長 大村悦男  
主任産業安全専門官 塩野泉  
労働基準監督官 杉本彩矢香  
(電話) 027-896-4736

## 平成31年1月～令和元年12月の労働災害発生状況 ～ 死亡者数は前年より9人減少し、建設業は死亡者数ゼロ ～

群馬労働局（局長 田窪文明）では、令和元年の労働災害発生状況の速報値（令和2年1月7日までに報告があったもの）を取りまとめたので公表します。

群馬県内における令和元年の休業4日以上<sup>1</sup>の労働災害（速報値）は、1月から12月までの累計で2,177人、そのうち死亡者数は11人となっています。

### ～ 昨年同期と比較した特徴 ～

○死亡者数：9人減少（前年同期の20人から45.0%減少、全国平均では7.3%減少）

#### 【業種別】

- ・建設業は0人（記録で確認できる昭和46年以降で初めて）
- ・運輸交通業（2人増）、商業（3人増）を除き減少

#### 【事故の型別】

- ・「交通事故」が6人（全死亡者数の54.5%）
- ・運輸交通業の死亡者数5人のうち4人、商業の死亡者数3人のうち2人が交通事故

○死傷者数：増減無し（全国平均では1.2%減少）

#### 【業種別】

- ・製造業（前年同期比43人 6.1%減少）と建設業（同35人 14.5%減少）が大幅に減少
- ・商業（同34人 12.0%増加）が大幅に増加し、接客娯楽業（同15人 10.9%増加）も増加

（参考 主な業種別死傷者数）

（令和元年）①製造業 666人（全産業に占める割合30.6%）、②商業 317人（同14.6%）、③運輸交通業 295人（同13.6%）、④保健衛生業 208人（同9.6%）、⑤建設業 206人（同9.5%）、⑥接客娯楽業 152人（同7.0%）

（平成30年）①製造業 709人（同32.6%）、②運輸交通業 285人（同13.1%）、③商業 283人（同13.0%）、④建設業 241人（同11.1%）、⑤保健衛生業 195人（同9.0%）、⑥接客娯楽業 137人（同6.3%）

#### 【事故の型別】

- ・「はさまれ・巻き込まれ」（前年同期比48人 14.3%減少）、「切れ・こすれ」（同25人 15.5%減少）と「墜落・転落」（同23人 6.4%減少）が大幅に減少
- ・「動作の反動・無理な動作」（前年同期比34人 11.7%増加）と「転倒」（同34人 7.6%増加）が大幅に増加

# 令和元年 労働者死傷病報告受理件数表

資料 1

令和元年12月末現在  
群馬労働局

業種別	署別	高崎	前橋	桐生	太田	沼田	藤岡	中之条	群馬局計	前年同期	増減
製造業		118	243	36	207	16	36	10	666	709	-43
	食料品製造業	46	97	8	40	5	5	2	203	197	6
建設業		57	58	8	38	13	18	14	206	241	-35
	木造家屋等建築工事業	13	14		9	4		3	43	46	-3
運輸交通業		49	141	10	77	6	9	3	295	285	10
	道路貨物運送業	34	135	9	77	5	9	2	271	272	-1
林業		6		4		1	3	3	17	20	-3
										2	-2
商業		81	129	22	48	19	14	4	317	283	34
	小売業	67	101	16	33	18	11	4	250	220	30
保健衛生業		39	100	16	33	7	8	5	208	195	13
	社会福祉施設	30	70	13	27	5	8	2	155	145	10
接客娯楽業		29	48	4	29	22	6	14	152	137	15
	飲食店	11	22	2	13	3	2		53	61	-8
上記以外の事業		92	176	27	93	25	11	12	436	420	16
	清掃・と畜業	17	23	7	23	5	1	4	80	89	-9
計		448	837	118	504	106	102	62	2,177	2,177	-9
前年同期		438	855	127	482	99	109	67	2,177		
増減		-6	-18	-9	22	7	-7	-5	-9		

## 災害の種類別

災害の種類別・署別	高崎	前橋	桐生	太田	沼田	藤岡	中之条	群馬局計	前年同期	増減	
事故の型別	墜落・転落	70	134	10	77	17	19	12	339	362	-23
	転倒	108	185	33	80	36	21	17	480	446	34
	激突	18	52	4	28	3	9	2	116	96	20
	はさまれ・巻き込まれ	53	112	21	68	13	10	11	288	336	-48
	切れ・こすれ	34	51	3	36	5	7		136	161	-25
	動作の反動・無理な動作	59	127	17	91	10	16	5	325	291	34
	交通事故(道路)	36	38	9	27	10	8	2	130	130	±0
起因物別	建設機械等	7	7	2	1	1	3	2	23	22	1
	食品加工用機械	2	15	2	6		1	1	27	26	1
	トラック	29	71	4	65	7	5	6	187	164	23

- 注 1 この表は、死亡及び休業4日以上労働者死傷病報告を集計しています。  
 2 各項目の下欄は死傷者数合計、上欄は死亡者数で下欄の数の内数です。  
 3 下の表は災害の種類別で、特に項目を設定して集計しています。

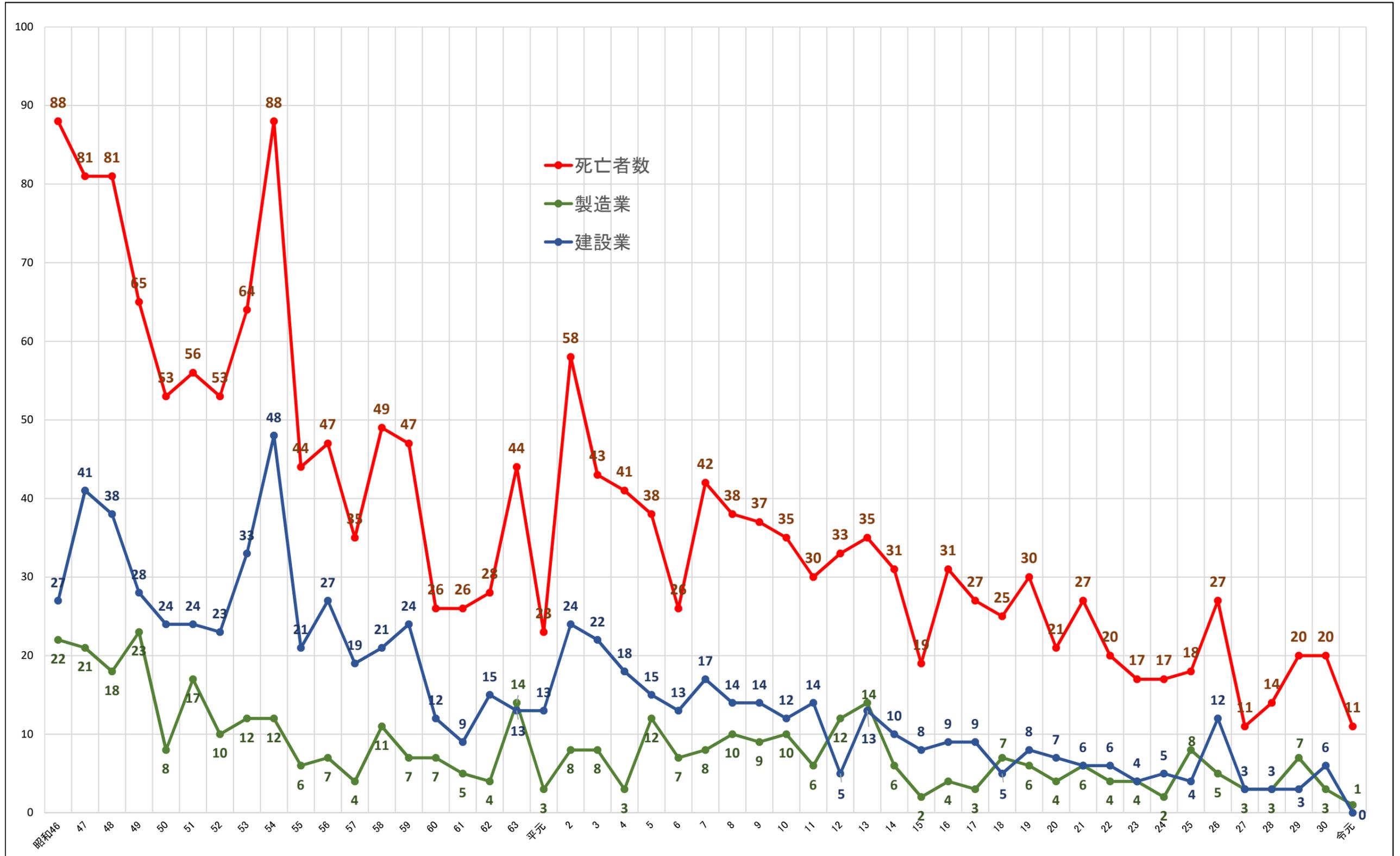
# 令和元年 死亡災害事例

資料2

令和元年12月末現在  
群馬労働局

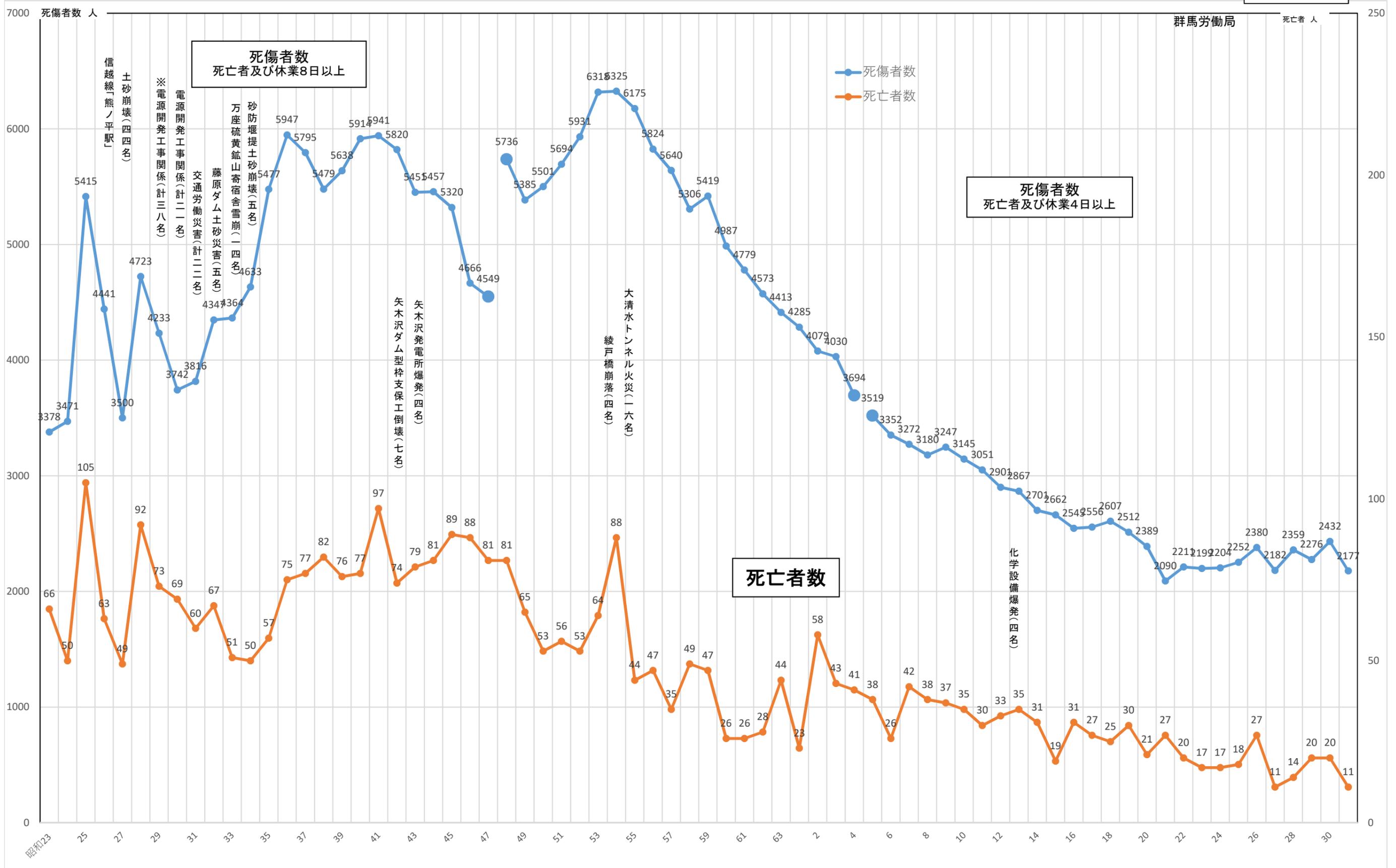
番号	発生月 発生時間帯 労働者数	年齢別 性別 職種	災害のあらまし	業種	事故の型別	起因物別
1	1月 14時頃 20人	70歳代 男 作業員	雨どい修理のため、脚立を使用して作業していたところ、バックしてきたフォークリフトが脚立に接触し、バランスを崩した被災者が、高さ約3mから墜落した。	農業	墜落、転落	はしご等
2	2月 17時頃 6人	50歳代 男 販売店員	ガソリンスタンド内において、被災者が構内を通行中、洗車機からバックで移動してきた乗用車に激突された。	燃料小売業	激突され	乗用車、 バス、 バイク
3	2月 9時頃 4人	60歳代 男 運転者	国道上を中型トラックを運転していた被災者が、対向車線へはみ出し、大型トラックと正面衝突した。	道路貨物 運送業	交通事故 (道路)	トラック
4	5月 3時頃 19人	50歳代 男 配達員	原付バイクで新聞配達中、国道を右折するため一時停止していたところ、後方から走行してきた乗用車に追突され頭部を強打し死亡した。	新聞販売業	交通事故 (道路)	乗用車、 バス、 バイク
5	5月 6時頃 26人	50歳代 男 運転者	被災者が運転する中型トラックが国道を走行中に信号待ちのため停車していた大型トラックに衝突した。	道路貨物 運送業	交通事故 (道路)	トラック
6	6月 14時頃 4人	50歳代 男 運転者	中型トラックを運転し、集荷のため国道を走行中、道路補修工事現場に停められていた工事用車両に追突した。	道路貨物 運送業	交通事故 (道路)	トラック
7	9月 8時頃 897人	60歳代 男 作業員	派遣先工場内で、製品組立のためレンチでナット締め作業中、何らかの原因により後方に倒れ、鉄板敷きの床面に頭部を強打し急性硬膜下血腫により死亡した。	製造業	転倒	建築物・ 構築物
8	10月 13時頃 22人	30歳代 男 作業員	サイロ内の残量を確認するため、はしごに登ったところ墜落し、その際に裂傷した部位から細菌感染した。	畜産業	切れ、こすれ	その他の 起因物
9	10月 14時頃 37人	50歳代 男 運転者	工事現場内において、回収する荷（鋼矢板）を移動式クレーンでトラックの荷台に積み込み作業中、荷台上の荷の位置調整をしようとしたところ、荷が崩れて近くにいた被災者が下敷きになった。	道路貨物 運送業	崩壊、倒壊	荷姿のもの
10	11月 18時頃 49人	70歳代 男 配達員	新聞の集金業務のため乗用車で契約者宅を訪問し、集金終了後に車道に止めた自車へ戻ろうと車道を歩いていたところ、走行してきた乗用車に激突された。	新聞販売業	交通事故 (道路)	乗用車、 バス、 バイク
11	12月 23時頃 73人	30歳代 男 運転者	4tトラックで県道を走行中、何らかの原因により中央分離帯に接触後対向車線を通り抜け、店舗の看板ポールに激突し、出血性ショックにより死亡した。	道路貨物 運送業	交通事故 (道路)	トラック

労働災害死亡者数の推移(昭和46年～平成30年)



(注) 1)平成10年までは、安全衛生年鑑から転載し、平成11年以降は死亡災害報告による集計。  
 2)平成22年以降は脳・心臓疾患、精神疾患を含む。  
 3)令和元年は12月末現在の速報値である。

# 労働災害死傷者数の推移(昭和23年～平成30年)



(注) 1) 昭和27年までは群馬基準行政要覧から、同28年から平成10年までは、安全衛生年鑑から転載し、平成11年以降は死亡災害報告による集計。  
 2) 平成22年以降は脳・心臓疾患、精神疾患を含む。  
 3) 令和元年は12月末現在の速報値である。